

JCS NEWS

vol.

52



CONTENTS

- 第2回ジュニア・チェロ・2-3
キャンプ開催報告
- マスタークラス開催報告 4-5
- Cellist's update 6-7
- メンバーズ 8
- アウトリーチ実施報告
- 事務局からのお知らせ
- 編集後記

ジュニア・チェロ・キャンプ 開催報告

Antonio Meneses マスタークラス 開催報告



MEMBERS VOICE R-366 熱尾 尚美さん

チェロとの暮らし

気づけば音楽は身近なところになりました。

楽器との出会いはたぶん幼稚園のときで、マーチングでベルリラを担当したこと、電子オルガンを習ったこと。その後もピアノを習ったり、小学校のクラブ活動で演奏したりしていましたが、中高ではなぜか音楽から離れて演劇に走ります。ただ、表現するという意味では今につながっているのかも。

大人になっていろいろな楽器を触るうち、友人が「使っていないチェロ貸してあげるよ」と言ってくれて、すぐに飛びつきました。そんなチェロとの出会いから、もう間もなく10年になろうとしています。チェロを弾いているという感覚が、生活がチェロを中心に回っています。レッスンや練習はもちろんのこと、演奏会に行くことや、服装だとか読む本とかまで。チェロ協会に入ったのは第2回チェロの日の参加申し込みと同時に、チェロの日は以来ずっと参加し続けています。今や冬の風物詩です。

思ったように上達しないことに歯がゆい思いもありますが、それもまたチェロと共に歩むということなのかなあと思っています。チェロのある暮らし、チェロと生きる自分。楽しんでいきたいです。



アウトリーチ実施報告
日時：2018年7月14日(土)
実施場所：社会福祉法人もえぎの会 しいの実社 懇親会
参加者：高木 慶太、鈴木 崇朗

アウトリーチ実施報告



R-213 高木 慶太

7月14日、目黒区で行われるとある懇親会での演奏という事で、チェロとバンドネオンのデュオで出演させて頂きました。

この珍しい編成のデュオは、当初2016年の春、日本チェロ協会主催チェロの日コンサートのために結成し、それ以来、年に数回自主的に活動を続けてきました。バンドネオンのデュオという事もありません。普段の演奏曲目の多くはアルゼンチンタンゴ。今回のパーティでのお客様には障がいをお持ちの方や普段演奏を聴く機会が少ない方も多いう事で、親しみやすい曲を選び、この日のために特別なプログラムを組みました。それぞれの無伴奏ソロを交え、人気アニメ曲からピアノの作品まで。至近距離に椅子を並べ、真剣に聴いて下さり、時折踊り出しそうになったり、歌い出しそうになったりしているのがとても微笑ましく印象的でした。

近々ではございますが、このデュオの演奏会が12月21日雑司が谷エル・チョクロにて19時半開演です。お時間ありましたら是非お越し下さい！

事務局からのお知らせ

- 入会のご案内“パンフレット”ができました！
チェロ協会の概要や活動紹介、入会申込書などを盛り込み、お知り合いの方にご紹介いただきやすい内容となっております。ぜひご利用ください。各イベントにて受付に設置しますので、手に取りご覧いただくと幸いです。
- 第9回チェロの日
日時/2019年2月2日(土)・3日(日)
会場/サントリーホール ブルーローズ
出演者/鈴木 皓矢、水谷川 優子、岩崎 光、ほか
チケットのお申込み/
<https://cello2019.cello-congress.com/>
- 事務局の新スタッフよりご挨拶
チェロ協会の皆さん、はじめまして。10月より事務局で働かせていただくことになりました、中野弘基と申します。よろしくお願致します。



退任のご挨拶

私のチェロ協会とのご縁は、サントリーホール支配人時代の2014年に評議委員に就任させていただいたことに遡ります。音楽を聴くのは好きでも、チェロについて全く知識のない門外漢の私で本当に大丈夫なのかと心配していたのですが、翌年からは事務局長も務めさせていただきました。

役員、事務局、会員、サポーターの皆さんと一緒に、20周年記念事業や一般財団法人化などの大仕事を、力を合わせて取り組ませていただいたことが、懐かしい思い出です。チェロ協会の魅力は、プロとアマチュアの垣根なく、皆さんが和気藹々と活発に意見を出し合い、お互いを尊重しながら、楽しく活動されているところだと思います。温かく優しく居心地の良い空間で、働かせていただいたことに感謝しています。

チェロ協会の活動を通じて知り合った皆さま、そして素晴らしいチェロ作品との多くの出会いが、私の人生をより豊かで充実したものしてくれました。心より御礼を申し上げます。最後になりますが、チェロ協会のさらなる発展と皆さまのご健勝、ご活躍をお祈りしています。

サントリー文化財団
専務理事 尾崎 勝吉

チェロ協会の公式サイトに情報を掲載できます

チェロ協会の公式サイトでは、公演情報や会員の皆さまのチェリストとしてのプロフィールを無料で掲載しております。ぜひ情報をお寄せください。

チェリストを探す



公演情報



Junior Cello Camp

第2回 ジュニア・チェロ・キャンプ

Photo by 村岡友美



JCCの概要と各コースの紹介

- ソロ演奏コース**
 対象：既に一定以上のチェロ演奏経験を有し、将来チェロ奏者として歩んでいくことを考えている方。
 レッスン：各自が選んだ演奏曲（1曲10分程度）の個人レッスンを受講。
 指導者：堀 剛先生、山崎 伸子先生、菊地 知也先生、河野 文昭先生、中木 健二先生、向山 佳絵子先生、鳥羽 聖矢子先生（ピアノスト）
- アドバンスト・アンサンブルコース**
 対象：既にチェロ演奏経験はあり、これからもチェロの演奏を学び続けたいと考えている方。
 レッスン：合奏練習を通じて、チェロの演奏技術やアンサンブルの技術について学ぶ。
 指導者：堀 了介先生
- ビギナーズ・アンサンブルコース**
 対象：まだチェロ演奏の経験は少ないが、これからチェロを楽しんでいきたいと考えている方。
 レッスン：合奏練習を通じて、チェロの基本的な演奏技術やアンサンブルの楽しさについて学ぶ。
 指導者：中島 顕先生、柴田 花音さん（アシスタント）

堀先生より



今日はジュニア・キャンプという学びの場です。私達から皆さんにこういうことに気をつけて勉強してほしいということ、いくつか言わせて頂きます。

昨日今日とあったアンサンブルの練習で堀先生が、「できる限り美しい音をつくりなさい、できる限り相手の音を聞いて何かと一緒に作っていきなさい」と仰ってましたよね。チェロの一番魅力ある点、それはチェロの「音」だと思うんです。もちろん音は色

山崎先生より



先輩の先生方からすべてお話があったので、私は本当に締めとして、話したいと思えます。

一番今回感じたのは、私事ですが、孫が出来ましたので、もう小さい子たちの演奏を聴いているだけでも、胸がいっぱいになってくるんです。特にビギナーズのアンサンブルなんか、もう一生懸命弾いていて、（もう涙が・・・）なのでこれはもう毎年続けていくしかない、と確信いたしました。

（一同、拍手）

今日も沢山集まってくれました。ただ、もともととお友達なんかにお声をかけて頂いて、来年からも、ずっと続けていきたいと思えます。よろしくお願ひいたします。

発表会プログラム

- ソロの部**
- L.ポッケリーニ：チェロ協奏曲 第9番 変ロ長調より第1楽章 <小3（神奈川県）・小4（神奈川県）・小5（東京）>
 - E.ラロ：チェロ協奏曲 二短調より第1楽章 <小3（埼玉）>
 - L.ボエルマン：交響的変奏曲 Op.23 <小6（東京）>
 - G.カサド：無伴奏チェロ組曲 第1楽章よりプレリュード <小6（兵庫）>
 - J.S.バッハ：無伴奏チェロ組曲 第3番 変長調 BWV1009よりプレリュード、アルマンド <中1（神奈川県）>
 - D.カバレフスキー：チェロ協奏曲 第1番 二短調より第1楽章 <中3（東京）>
 - E.ラロ：チェロ協奏曲 二短調より第3楽章 <中1（長野）>
 - Z.コダーイ：無伴奏チェロソナタ Op.8より第1楽章 <小6（神奈川県）>
 - P.I.チャイコフスキー：ペッツォ・カプリチオーソ Op.62 <中3（神奈川県）>
 - D.ショスタコーヴィチ：チェロ協奏曲 第1番 変ホ長調より第1楽章 <中2（東京）>
- アンサンブルの部**
1. フランス民謡：French Folk Song
ビギナーズ・アンサンブルコース
小1（大阪）、小5（兵庫・神奈川県）、中1（神奈川県）
 2. アメリカ古謡：キャベッジダウン
ビギナーズ&アドバンスト・アンサンブルコース
 3. J.クレンゲル：アンブロンプチュ
アドバンスト・アンサンブルコース
小3（大阪・山梨）、小5（大阪2名・神奈川県・東京・千葉）、小6（千葉2名・秋田）、中1（京都・東京）、中2（神奈川県）、中3（栃木）
 4. G.ゴルトマン：ロマンス Op.119, No.1
全コース合同

※菊地先生、中島先生、堀先生の講評については次号掲載いたします。

平成30年9月15日（土）、16日（日）に桐朋学園大学調布キャンパス（東京都調布市）にて第2回ジュニア・チェロ・キャンプ（以下JCC）を開催しました。平成25年に第3回チェロの日と同時に開催以来、実に5年ぶり！待望のジュニア向け単体イベントの催しとなりました。

全国各地から小・中学生が総勢30名集まり、3つのコース（ソロ演奏コース、アドバンストアンサンブルコース、ビギナーズ・アンサンブルコース）に分かれてアカデミーを実施、2日目は練習の成果を披露する発表会を行いました。発表会の後には、会場を調布クレストンホテルに移し、懇親会が開催されました。



アカデミーは、受講生のチェロの経験に合わせてコース毎に進行しましたが、ソロ演奏コースのレッスンを聴講できる時間を設けたり、全コースの参加者でアンサンブルに取り組んだり、参加者、指導者、スタッフ全員でお昼を囲む時間を設けるなど、チェロを学ぶ者同士の交流の時間を大切にしました。また、発表会では演奏を発表するだけでなく、演奏会をつくりあげる上で重要なリハーサルや舞台転換、そしてそれらの準備をする裏方の役割（ステージマネージャー）等についても、普段聞き慣れない言葉について解説を交え、学んでもらえるような機会を持ちました。

また、初日には講師3名（河野文昭先生、中木健二先生、向山佳絵子先生）によるアンサンブルの演奏があり、翌日に発表会を控えた参加者にエールを送っていただきました。（ハイドン《バリトン三重奏曲 第117番》へ長調）限られた時間の中でしたが、たくさんのご意見を吸収してもらい、改めてチェロが好きになる、そして、仲間づくりに役立てることができていたら大変嬉しく思います。

VOICE

S-08 柴田 花音

この度は、第2回ジュニア・チェロ・キャンプにアシスタントとして参加させていただきました。有難うございました。このキャンプに参加し、後輩のチェリストらの頑張る姿を通じ、沢山の感動を頂きました。

どんな状況下であろうと、音楽を心の底から感じ楽しむ姿や、曲の背景や内容を一生懸命に調べながら取り組む姿などは、感動以上の衝撃でした。私はアシスタントとして、ビギナーズとアドバンストクラスのチェロアンサンブルのお手伝いをさせていただきました。なかなか思うように弾けないことがあっても、全員一つになって演奏する楽しさ、お互いに考えを出し合ってより良いものに仕上げようという思い、このような経験が団結力や向上心へと繋がり、わずか2日間にもかかわらず、大きな変化が見られ、私にとってもアンサンブルの楽しさを改めて感じさせられました。

私自身もいずれば指導を念頭に置かなくてはならない立場になるかと思えます。そのような視点からも、理事長の堀剛先生、今回のキャンプを中心となって運営された山崎伸子先生をはじめ、多くの先生方の子供達に対する熱心な指導風景は、普段なかなか見る事の出来ない貴重なシーンであり、とても勉強になりました。

そして何より先生方の熱い思いの中のレッスンと、その思いに全力で応える子供達の姿に、私自身も後輩チェリスト達の情熱に負けないよう、もっと頑張らなくてはと感じた時間でした。これからも全力で音楽家として進化し続けたいと思います。

本当に有難うございました。

S-09 北村 陽

ジュニア・チェロ・キャンプ（JCC）の発表会は、みんなとても楽しんで演奏していて、アンサンブルでは一緒に演奏して楽しみました。ソロ演奏は、それぞれの個性を活かした演奏で素晴らしいかったです。

私は発表会を聴きながら、自分が参加した第1回JCCのことを思い出しました。その時は私は小学2年生で、年齢の近いチェロ友達があまりいなかったのですが、JCCで沢山の参加者がいることに驚きました。ソロのレッスンでは、憧れの山崎伸子先生に指導していただき、信じられない思いでとても嬉しかったことを覚えています。また、他の先生方のレッスンも見学できて勉強になりました。アンサンブルは初めてでしたので、とても楽しかったです。ソロの本番では、たくさん拍手をいただいたので嬉しかったです。

私が参加した前回のJCCは「チェロの日」の中での開催で、プロの方々の演奏もたくさん聴けて本当にチェロ三昧でした。いろいろな経験を

参加者の声

- 演奏会では、友達に演奏を圧倒され、緊張して止まってしまったが、先生方、スタッフの方々に励まされ、温かさを感じた。自分の演奏はとても悔しかったので、来年のJCCでリベンジしたい。また、来年も聞いてほしい。
- 先生と一緒にお昼ご飯を食べることができたのは本当に良かった。その時に堀先生から、シユタル先生はこういう先生だから、自分の出身地はここだということを教えていただいた。
- 本番、ポッケリーニが終わって、山崎先生がにっこり笑ってくださった。
- キャンプでは助け合いの力を学んだ。それぞれのパートでボウイングを話し合ったり、決めたり、助け合ったり、弾きやすさやボウイングを探して選んだりするのが大変だった。
- 北村陽君が二日目の会場にいらしてびっくりした。第3回ではJCCのOBとして、何か一曲弾いていただけたら素敵だと思う。ぜひ!!
- 私は小学6年生から始めたため、私よりも早くにチェロを始めている人の方が圧倒的に多く、私より若いのに上手い人がいて、すごく悔しかった。きつこの時の気持ちは、このJCCがあったからこそなのだと思う。
- 保護者さまより
初級コースからソロコースまで幅広くご指導をいただけたことが、素晴らしいと感じました。日本のチェロ界の代表的な先生方のご指導を受けられたり、レッスンを拝見できたり、演奏を拝聴できたり、一緒に弾いていただけたことは今後の励みとなりました。私の子供も、もっと上手になって、また一緒に弾いていただきたい、いつかソロを演奏したいなど目標を持ってたことが嬉しかったです。
- 皆さんの真剣な様子に身が引き締まりました。その一方で、コンクールとは違い、競い合うよりお互い知り合い、今後同士になれる様なそんな機会があったと感じました。

～何かを学ぶのに遅すぎるということは決してない～
アントニオ・メネセス先生 公開レッスンを終えて

R-475 中木 健二

10月10日、平日の夜にもかかわらず会場となった白寿ホールには多くの学生やチェロ愛好家が集まりました。チェリストとして、教育者として国際舞台で活躍するアントニオ・メネセス先生の公開レッスンでは、3名の受講生による演奏に皆が集中して耳を傾けていました。

偶然にも受講生は中学生・高校生・大学生が一人ずつとなり、それぞれ個性的な演奏がキラキラと輝いていました。演奏を聴くため客席に座った先生は真剣な眼差しで受講生を見つめ、限られた時間の中で瞬時にその演奏の長所と課題を見極めていたように見えました。

楽曲に対して強いイメージを持つこと、またそのイメージを余すところなく舞台上で表現するための技術的なアドバイスは細部にわたって興味深いものでした。また、シューマンの《アダージョとアレグロ》では、言葉と音楽との関係についてお話しされ、フレーズと音楽が求めるアクセントに対して最大限に注意することを強調されていたのが印象的でした。

レッスン終了後の講評でのお言葉は、先生の音楽家としての哲学を表しているようで、決してわすれられないものとなりました。「私が最も多くのことを一人のピアニストから学んだのは、私が40代になってからのことでした。何かを学ぶのに遅すぎるということは決してありません。」

今回受講・聴講した若いチェリストにとって、音楽を奏でることの素晴らしさが改めて伝わるような機会になり、とても温かい気持ちになりました。

R-304 ジェームス 千花

さる10月10日、アントニオ・メネセス氏のマスタークラスの聴講の機会に恵まれ、ワクワクしながら会場に向かいました。メネセス氏と、今回は通訳としての中木健二氏が登場し、お二人の包容力が感じられる中始まったマスタークラス。

最初のチャイコフスキーの《ロココ風の主題による変奏曲》を弾かれた鳥羽咲音さんの、中学生とは思えないような完成された演奏と、凛とした佇まいには、ただただ度肝を抜かれるばかりでした。

泉優志さんと黒澤優芽さんとの高校生ペアの演奏のブラームスの《チェロ・ソナタ第2番》その若さに満ちた演奏にエネルギーを分けてもらい、彼らへの「奏者としてステージに足を踏み入れたその瞬間から、パフォーマンスが始まっているのだ」と言うアドバイスにはハッとさせられました。ついで「弾く」事だけに意識が行きがちなか、プロもアマチュアも関係無く、音楽を表現するものとしての心構えはどうあるべきなのか、私自身ひと月後に発表会を控え、このアドバイスを心に留めて本番を迎えようと思えました。

佐山裕樹さんのシューマン《アダージョとアレグロ》に向けては、「フレーズ＝言葉」と捉え、どこにアクセントが来るか考えるようにと、ご自身の名前にフレーズをつけて歌ってくれる一場面も。音楽にはレモンやオレンジのように果汁が詰まっています、どれだけ絞り出せるかは、その分析にかかっているとおっしゃっていました。

若い頃から活躍されていた彼自身が、これまでで一番勉強したのが現在94歳のピアニスト（きっとボザール・トリオを組まれたプレスラー氏の事ですね）と出会った時だったそうです。

「遅すぎるという事はない、いつまでも興味を持ち続け努力を積み重ねることで幸せになれる」と、全体の講評の際におっしゃった事は、聴講している私達にも向けたメッセージであるのでしょう。応援してもらったようでとても嬉しかったです。

美味しいジュースを絞り出せる様、思いを新たにできた時間を過ごす事ができました。



S-156 佐山 裕樹

ピアノ：諸田 由里子

シューマン：アダージョとアレグロ 作品70

メネセス先生のレッスンを受けられて、また聴講もさせて頂き、とても有意義な時間を過ごすことができました。

シューマンの《アダージョとアレグロ》を見ていただきました。シューマンの曲を最近弾くことが多く、弾けば弾くほどシューマンの表現の難しさというものを感じています。今回のレッスンでは、そのシューマンの表現の仕方やフレーズの取り方についてご指導頂くことができました。

歌い方が1通りになってしまっているところがあり、そういう場合はアクセントがどこにあるのかということに気をつけて見なければいけないとアドバイスいただきました。言葉のどこにアクセントが付くのかによってニュアンスも変わってきて、それはドイツ語とも結びついていてフレーズにつながるということを学びました。フレーズを長くするというのが今の課題で、そのヒントをいただけたので、参考にしながらもっと模索していきたいです。

また、音のつながりというのも課題で、その点についても学ぶことができました。音と音の繋がりではシフトに邪魔をさせてはいけないからフィンガリングが一番最短のところにして、全てが繋がるように弾くというものです。練習方法としてはゆっくり弾き、切れないように指を動かすということ。これを家で練習したのですが、意外にも難しくこれから練習してスムーズに動いて繋がるようにしたいと思いました。

先生からは最後に「学ぶのに遅いということはない、一生学び続けてください」というお言葉をいただきました。音楽には終わりがなく、学び続けることで新たな発見があり、音も変化していくのだと改めてわかりました。今の課題を解決すると同時にまた別の課題をみつめて色々な角度から見て聴いて、これからも学び続けていきたいです。

最後になってしまいましたが、今回マスタークラスを開催してくださったチェロ協会の皆様、本当にありがとうございました。



S-191 泉 優志

ピアノ：黒澤 優芽

ブラームス：チェロ・ソナタ 第2番 へ長調 作品99より第1楽章

この度、メネセス先生のマスタークラス受講の募集を知り、もう一度、先生に…と居ても立ってもいられない気持ちになりました。

幼い頃からメネセス先生のあの美しく情緒あふれる演奏がとても好きで、憧れていました。また僕の先生に、メネセス先生の音楽についての素敵な話をたくさん聞かせていただいております、とても興味を持っていました。

初めてメネセス先生のレッスンを受けたのは、昨年、藝高での公開レッスンの時で、大変刺激的なレッスンでした。その時にメネセス先生が言われた「絨毯の下まで掃除機をかけるかのように緻密に練習する」「イメージを強く持つ」その一言一言が、あれから少し経った今でも練習のたびに僕の頭の中で響き続けています。

今回、再度レッスンを受けられることになり、今、勉強しているブラームスの《チェロ・ソナタ第2番》第1楽章を聴いていただきましたが、少し緊張し、慎重な演奏になってしまいました。メネセス先生には、僕の音で僕の心理状態まで見透かされたようです。「舞台に出た瞬間からお客さんは見ている。不安な様子や緊張している様子は嘘でも表に出してはいけない」と言われました。先生に促され、もう一度胸を張って演奏すると、音に張りが出ました。今まで生きてきた中で一番嬉しかったことを思っ！とユーモアを交えながらアドバイスをいただき、再度演奏すると、僕の思い描いていた音に随分近くなったように思いました。技術的な面はもちろん、今回も僕にとって、今一番大切なことを教えていただいた気がします。

実は先日、ブラームスの《チェロ・ソナタ第2番》を演奏する本番があり、先生に言われたことを実践し、舞台に出てきた瞬間の振る舞いで、心構え自体だいぶ違うことを改めて感じました。また、この曲の持つ喜びの感情を自信を持って表現し、お客様に僕の音楽をしっかりと伝えられたように思います。

このメネセス先生のマスタークラスは、今後の僕にとって本当に貴重な宝物となりました。これからも魅力あるチェリストになれるよう精進したいと思います。最後に、このような機会を下さいました日本チェロ協会関係者の方々に、心より御礼申し上げます。



Master Class
10月
Antonio Meneses
アントニオ・メネセス
公開マスタークラス

メネセス先生は、後進の指導にも熱心で、欧州ではスペインのソフィア王妃高等音楽院やイタリアのキジアーナ音楽院に加え、2008年からはベルン音楽院で教えている。また、北南米や日本でも積極的にマスタークラスを行っている。

開催日：2018年10月10日（水）
会場：Hakuju Hall（東京都渋谷区）
講師：アントニオ・メネセス 通訳：中木 健二
受講生：3名 講師・通訳・伴奏者：5名
来場者数：会員46名、非会員32名、関係者7名

S-204 鳥羽 咲音

ピアノ：鳥羽 泰子

チャイコフスキー：ロココ風の主題による変奏曲 イ長調 作品33

今回、私は白寿ホールでの公開マスタークラスでチャイコフスキーの《ロココ風の主題による変奏曲》を演奏しました。この曲を習い始めてから4ヶ月になります。まず初めのテーマにまとまりがなく、1つのフレーズの中で強弱がはっきりしすぎているため2つのフレーズに聞こえてしまうと注意されました。あとで自分の演奏を聞き直しましたが、確かにフレーズが2つに聞こえていました。他にも右手首の使い方、シフトの仕方、音をはっきりと出す方法をご指導いただくことができました。

また、私は今右手首の脱力の仕方について練習の時に研究しています。そしてとても苦戦しています。その点についても、メネセス先生から右手首の練習方法をいくつか教えていただきました。ゆっくりとした変奏曲では下るシフトの時に雑音がでないよう、きれいにシフティングをするようにということもお教えました。

レッスンが終わった後は、次のお二人のマスタークラスを聴講しましたが、さらにたくさんの学ぶことができました。自分が伝えたいことを自分が思っている以上に出さなくてはいけないことなどを改めて気づかされました。私はいつも舞台上で演奏している時に録画を撮ってどこが良くなかったか見直していますが、弾いている時はすごく表現できていると思っていたところが、実際聞き直してみるとほとんど何も伝わっていません。思っていたほど表現できていないということがあるので、これからはもっと大きく表現出来るようにしたいと思いました。

クラスの最後に、メネセス先生が40歳になってからのボザールトリオで共演されていたメナヘム・プレスラー氏からもっと多くの事を学ばれた、というお話をされました。私はまだ13歳なので40歳という年齢の感覚が想像できませんが、周りの方々のうなずく様子を見て、音楽を通して常に学び続け、音楽の喜びを観客の皆様と分かち合いながら楽しく興味深い人生を送りたいと思いました。

最後になりましたが、このような素晴らしいホールでマスタークラスを受講できましたことを有り難く思います。



Cellists Update



S-100 Urara KATSUKI

香月 麗さん

1. 近況を教えてください

昨年1位をいただいた日本音楽コンクールのツアーが11月をもって終了しました。各地の素敵なホールでコンチェルトやソナタを弾かせていただき、嬉しい出会いがたくさんありました。

今は12月にあるリサイタルやディプロマコースの卒業試験に向けて準備をしています。

2. チェロを始めたきっかけを教えてください

子供たちとコンサートを聴きに行きたいと思っていた両親が、楽しく聴くことができるためにも楽器を習っていた方が良いのではないかと考えたようです。兄が先にヴァイオリンを始めて、私には他の楽器をということでチェロを与えてくれました。

3. 一番ワクワクするときは、どんなときですか？

最近一番ワクワクしたのはあるコンサートを聴きに行ったときです。心を鷲掴みにされて揺さぶられて次何が起こるか目が離せませんでした。最近ではチェロに限らず、色々な音楽家の方々の演奏を聴いて、以前より感動することが多くなりました。やはり音楽って素敵だなと感じる、そんな演奏に近づけるよう日々励んでいます。

4. チェロ以外に好きなことはありますか？

演奏会や講習会に参加することでいろいろな土地を訪れ、その度街歩きすることが楽しみのひとつです。自由に歩いて街の人々の雰囲気や自然を感じることが好きです。



S-149 Hideaki FUJIWARA

藤原 秀章さん

1. 近況を教えてください

この秋からドイツのベルリン芸術大学の大学院で勉強を始めました。日本でのコンサートなどもあり、まだひと月毎に行ったり来たりで落ち着かない生活ですが、レッスンや文化がとても刺激的です。11月は、ベルリンで週に4日、3時間のドイツ語の授業を受けに語学学校へ通っています。11人のクラスですが、アジア人は僕ともうひとりで、あとはアメリカやヨーロッパの国の人たちなので、ドイツ語ができなくても英語でコミュニケーションが取れる中、僕は英語ができずに少し寂しいですが、頑張っはやく習得し、生活に慣れてチェロの練習に専念したいです。こっちにいて一番嬉しいのは、美味しく種類豊富なチーズが、とても安く買えることです。

2. チェロを始めたきっかけを教えてください

チェロに触れたきっかけは、6歳くらいの時に母が1/4のチェロを買ってきた事だと思いますが、演奏家になろうと思ったきっかけになったのは、10歳の時に姉が通っていたジュニアオーケストラに入った事です。正しくは週末に家から追い出された感じでしょうか。そこで桑田歩先生に出会って個人レッスンに通うようになってから、演奏家になることを徐々に意識するようになりました。僕の場合、確か小学校5年生くらいまでは継続してチェロを弾く習慣は無く、ひと学年22人の田舎の小学校で、他の子と同じように生活していました。なので様々な成り行きで今に至るという感じで、今までの偶然が重ならなかったら、今何をやってたか分からないですね。

3. 一番ワクワクするときは、どんなときですか？

コンサートの依頼を頂いた時や、プログラムを考えている時です。場所や客層を踏まえながら、自分が弾きたい曲を照らし合わせて、どうしたらお客さんが満足してくださるか考えるとワクワクします。僕もそうですが、どうしても知っている曲を聴きに行きたいと思っていますが、コンサートの中で「こんなに良

小学生のとき、畑や田んぼの間を50分歩いて学校に通っていました。友達と道草してそれ以上かかることも。私にとって、自然の中を歩き四季を感じることは自分らしくあるための大切な要素です。

これまでのチェロ協会の催事で印象的な出来事はありますか？

様々な企画に参加させていただいておりますが、私が入会してすぐの2011年、溢れるチェロの音の中で思いっきりびのびと弾かせて頂いた、チェロ・コンGRESSでの経験は忘れられません。特にサルダナは、家でひとりで練習しているときは曲がわからず譜読みで苦戦しましたが、サントリーホールの大ホールで全体で音を出したとき、あちらこちらからメロディーやダンスのリズムが聴こえてきて、楽しくて仕方がなかったことを覚えています。

6. 今後どのようなチェリストとして活動していきたいですか？

人との出会いや共演などの経験を経て、30年経った時、21歳の時はこんな自分を想像できなかったと思う姿になっていたら嬉しいです。何歳になっても好奇心旺盛に学び続けたいです。

Upcoming Events

藤沢にゆかりのある音楽家たち 2018

vol.2 響きあうチェロ 未来に羽ばたく愛弟子たちとともに

日時/2019年3月17日(日) 15:00開演 (14:30開場)

会場/湘南台文化センター市民シアター

料金/一般:3,000円、学生:2,000円(全席指定)

出演/堤剛、香月麗、小林幸太郎、笹沼樹、佐山裕樹、濱田通、森田啓佑、

水野優也(Vc)、倉田澄子(トーク)

間/ (公財) 藤沢市みらい創造財団 芸術文化事業課 TEL: 0466-28-1135

https://f-mirai.jp/archives/47271

来年の3月ですが、堤先生、倉田先生のゆかりの地である藤沢でのコンサートに出演させていただけることを、とても嬉しく思います。小林さんと笹沼さん、桐朋で学んだ同世代の仲間たちとの舞台は桐朋チェロアンサンブルを思い出します。私自身とても楽しみにしております。どうぞお越しくださいませ。

い曲があったんだ」「チェロってこんなに面白いんだ」と、何か新しい魅力を発見してもらえるコンサートにしたいと思ってプログラムを考えたり、練習しています。

4. チェロ以外に好きなことはありますか？

ヴァイオリンの曲や、ヴァイオリン奏者が好きです。ピアニストも興味があります。ヴァイオリニストは、とてもフレキシブルに楽器を扱っているような感じがして、チェロの演奏を聞くよりも、僕にははっきりとその人の持っているものが聞こえてくるところが好きです。あとは、ぼーっとするのが好きで、気がつくとなあという間に時間が過ぎていきます。また、1、2年に1回ですが、富士急ハイランドに行くのが生き甲斐です。

5. チェロ協会のイベントで印象的な出来事はありますか？

チェロの日に榎本瑠音さんとデュオで演奏したのがとても思い出に残っています。先生方を前にとても緊張しましたが、ハルヴォルセンのバスカリアをふたりで演奏したのはとてもエキサイティングでした。今思うと、暗譜で演奏したあの気合はどこにあったのだろうと思いますが(笑)、でも思い出すとそういう挑戦する気持ちみたいなものがふと蘇ってくる、印象に残っている本番です。

6. 今後どのようなチェリストとして活動していきたいですか？

ドイツでの勉強が始まったばかりで先のことはまだ分かりませんが、まずは、なかなか難しいことではありますが、当たり前前の事が当たり前になること。その上で、彫りが深く、多彩な音色が出せる、音楽の幅が広い演奏家になりたいです。また、生涯成長し続けられる演奏家でありたいと思います。

Upcoming Events

Orchester ohne Grenzen 明治大学 ドイツ文化の日

日時/2018年12月8日(土) 16:00開演 (15:30開場)

会場/明治大学アカデミーホール(御茶ノ水駅より5分)

出演/ローレンツ・ナストリカ(Vn)、藤原秀章(Vc)、ほか

料金/入場無料(入場には整理券が必要)

間/主催:明治大学 TEL:090-5397-2924(井戸田)



R-076 Hakuro MORI

毛利 伯郎さん

1. 近況を教えてください

現在(11月)、サントリーホール室内楽アカデミーの履修生全員が参加する室内楽フェスティバルのために富山県の魚津市にきています。2015年に読売日本交響楽団ソロ・チェリストをやめてから「教える」比重がたいへん重くなってきていると感じています。フェスティバルは約1週間なのですが、会場が新川学びの森天神山交流館とって、洗足学園魚津短期大学の旧校舎となりますので、音楽教育の場として非常に環境が整っています。

2. チェロを始めたきっかけを教えてください

父が医者だったので、学生時代から始めたチェロが大好きで、仕事が終わると長い時間練習しているのを小さい時からずっと見ていました。その楽しそうな様子をととても羨ましく見ていたのですが、チェロは高価なもので、触らせてくれませんでした。でも、どうしても自分もやりたいと思っていましたので、ついに10歳から始めることができました。当時、手に入る一番小さなチェロのサイズが分数チェロ(3/4)だったので、この年齢から始める人も多かったのではないのでしょうか。元々、両親は九州の人だったので、私が4〜5歳の時に高崎に越してきました、父は現在の群馬交響楽団(1945年に高崎市民オーケストラとして創設された)のアマチュアのメンバーでした。

3. 一番ワクワクするときは、どんなときですか？

趣味としては、健康のために10年ほど前からウォーキングをするようになりました。また、写真を撮ることが好きです。季節の様子(11月でしたら紅葉)を写真におさめて、直ぐにプリントして見るのは楽しいですね。なかなか時間はありません。

その他は、やはり自分の好きな曲を聴く時でしょうか。



R-257 Syohei UWAMORI

上森 祥平さん

1. 近況を教えてください

おかげさまで、ソロ、室内楽、オーケストラと各地で様々な活動をさせていただいております。また、我が家は夫婦でチェロ奏者なので、子育ても互いに助け合いながら、時には

家族で演奏旅行にも出かけ、賑やかな音楽生活を送っております。遂に今年、夏のバッハ×ブリテン全曲公演のアンコールで初の親子共演を実現する事ができました。

2. チェロを始めたきっかけを教えてください

近所にチェロ奏者の雨田一孝先生が住んでおられ、一人っ子の僕にとって、当時大学を卒業されたばかりの雨田先生は憧れの存在でした。8歳からチェロ教えていただき、大切にいただいたおかげで、これまでチェロを続けられたと思っています。今も優れた演奏家を数多く輩出されている素晴らしい先生です。

3. 一番ワクワクするときは、どんなときですか？

自分より若い世代のキレッキレの演奏に出会った時。

4. チェロ以外に好きなことはありますか？

映画鑑賞、展覧会巡り、子供達と知らない所に当てるぼうに行く事。

5. 留学で得られたことについてお話しください

ヨーロッパ、中でも特にベルリンは極めてレベルの高いチェリストが世界中から集まり、それぞれが奇想天外な個性を持って活動しています。そんな人達に直接会って話し、様々な挑戦の先にある新たな指針となる答えを、それぞれが手探りで探す混沌の只中に自ら身を投じる事で、音楽の未来は今まさにここで生み出

4. プロのチェリストを目指している学生や若いチェリストに望むことはありますか？

よく言われていることではありますが、最近、情報が直ぐ手に入ることもあるせいか(ある意味で良いことですが)、自分で考えて創造する、自分で音楽を考えてつくっていく能力が希薄になっているように思います。ある人の真似事にならないよう、深みや個性を伸ばして自分自身をもっともっとう磨いてほしいと思うのです。昔は、個人的な演奏家がたくさんいて、その人の音を聴くと「あーだれだれさんね」と分かったものです。まずは「考える」ことをやってほしいと思います。

また、9月にドイツ・ミュンヘンで開催された第67回ミュンヘン国際音楽コンクールのピアノ三重奏部門で、葵トリオ(小川響子さん:Vn、伊東裕さん:Vc、秋元孝介さん:Pf)が優勝されました。皆さん、サントリーホール室内楽アカデミーで学ばれていらっしゃると思いますので、日頃の努力が実を結んだのだとたいへん嬉しかったです。室内楽アカデミーは、一人の受講生に対してファカルティ(講師)が4〜5名ついてレッスンをを行います。弦楽器奏において精通している各スペシャリストが同時に指導をしますので、たいへんユニークです。

Upcoming Events

サントリーホール室内楽アカデミー

アカデミー・ディレクター 堤剛(チェロ)

ファカルティ(講師) 原田幸一郎、池田菊衛、花田和加子(Vn)、磯村和英(Vla)、毛利伯郎(Vc)、練木繁夫(Pf)

第25回 ミュージックセミナー in ゆうばり

講師:毛利伯郎

スケジュール/第3クール:2019年8月8日(木)~13日(火)

間/ミュージックセミナー in ゆうばり実行委員会事務局 TEL:011-211-1463

http://www.musicgallery.acnet.jp/wordpress/

いしかわミュージックアカデミー

間/いしかわミュージックアカデミー実行委員会事務局 TEL:076-225-1372

されているのだという実感とともに生活できる事は、他の何物にも代え難い魅力だと思います。

世界の頂点に触れ続けた経験は今に生かされています。音楽のユートピアを見てしまった今、どのように活動するべきか。この世で最も速度の速いものは「思考」であるという説がありますが、何処にいても思考だけは最先端でありたい、そしてそこから生まれたビジョンを形にしていける事に今は取り憑かれています。

6. 今後どのようなチェリストとして活動していきたいですか？

チェロというメディアの可能性を広げる活動をしていきたいと思っています。現在、バッハ×ブリテンの無伴奏チェロ組曲の全曲演奏会を毎年開催しており、この企画はほぼ間違いなく世界初の試みで、今年各誌で高い評価をいただいたこともあり、許される事なら一生続けたい企画ではあるのですが、それ以外にもさらに今後自分でも思ってもみないような企画が生まれるのではと感じており、そんな新たな挑戦を自分自身楽しみにしているところです。

また、演奏活動と共に、教育の面でも東京藝術大学で10年以上、今現在は京都芸大でも教鞭を取って来ましたが、もしかすると教育についてはもっと広い幅で活動していくべきなのでは、と感じています。学生のレベルはもともと以前より上がりましたが、それより遥かに下の年齢層の子供達や、まったく逆に社会人やベテランの方々の、音楽に向き合うエネルギーには最近目を見張るものがあります。そんな魅力的な人々に囲まれながら賑やかにクリエイティブな日々を過ごすことは、非常に充実したものであると感じています。

Upcoming Events

J.S. バッハ×B.ブリテン×上森祥平

無伴奏チェロ組曲全曲演奏会 "究極の9曲!" 2019

日時/2019年8月31日(土) 13:30開演 (19:30終演予定)

会場/東京文化会館 小ホール 料金/4,000円(全自由席)

出演/上森祥平

間/ミリオンコンサート協会 TEL:03-3501-5638